

月刊 エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～

シニアライフ版

2016年(平成28年) 1月号 第17号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 網谷敏敦
http://www.koureisha-jutaku.com

—Elderly Press Newspaper—

第12回 安全で快適な旅のために

先日、夕方のラッシュに地下鉄に乗車していた時のことです。

列車が駅に到着して扉が開くなり、「迷惑おかけします!」と若い駅員の大きな声が車内に響きました。驚いて声の方を見ると電動車いすの男女が乗り込むところでした。「すみません、車いすが入りますので奥へ詰めて場所をあけて下さい」と、矢継ぎ早に誘導をつづけます。二人が慣れた様子で人混みをかきわけるように乗車を終えると、今度は「ご協力ありがとうございました」と、やはり元気な駅員の声が響きました。

乗車の間、二人はほとんど誰とも目を合わせることはなく、終始無言でした。二駅ほど過ぎて女性が一人、下車するときに小さな声で「申し訳ありません」と言って降りていきました。男性は無言のままその次の駅で降りていきましたが、心なしか大柄な体格が少し小さく見えました。

混雑の中、短時間で車いすの乗客を乗せ込むためには、他の乗降客に即座に協力を得



▶今日は川崎の電気史料館へ、お出かけ日和です

車いすの乗車は「迷惑」か

なければなりません。ですから、かの駅員が自分の言葉を省みたり、車いすの彼らの気持ちを考えたりする余裕がなかったことは致し方ないのかもしれない。しかし、真向かいからこの様子を目の当たりにしていた私には、車いすの二人の心情は察するに余りあるものでした。

来春に障害者差別解消法の施行されることから、国土交通省では観光庁を通じてユニバーサルツーリズムの推進とあわせて、運輸機関や宿泊施設、観光施設の対応についてのガイドラインを発表しました。こうした制度が周知されていくにつれて、自ら街へ出ようとする車いすの人も増えるでしょう。そのためには法整備といったハード面だけでなく、障がいをもつ人たちが和やかな気持ちになれるような社会の醸成も急がれます。

安全! 快適! 介護旅行

SPIあ・える倶楽部社長
篠塚 恭一

1961年千葉県生まれ。大手旅行会社の乗務員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組み。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長、NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長

